

# ファミリーニュース

編集発行

カトリック一宮教会事務局広報委員会  
〒491-0044 一宮市大宮1-7-1  
TEL (0586) 73-4884  
FAX (0586) 59-5884  
ホームページ版

9月号

2024

## 見よ、それはきわめてよかった

主任司祭 太田 実

日本の司教団は、教皇フランシスコが2015年に公布した回勅『ラウダート・シーーともに暮らす家を大切に』に学び、時間をかけて、環境危機を扱う文書の作成に着手し、2024年7月1日に発行しました。

中央協議会のホームページにある解説をご紹介します。

この文書の表題となっている「見よ、それはきわめてよかった」は、旧約聖書の創世記1章31節にあることばです。創造主である神は、すべての被造物を「よいもの」としてお造りになりました。その「よいもの」が、いまや瀕死の状態にあります。環境危機への対応は、まさに全人類共通の喫緊の課題です。

副題にも表現されていますが、中心となるテーマは、教皇が『ラウダート・シ』で説いた「総合的なインテグラルエコロジー」です。それは、あらゆるものは密接に関係し合っているという考えから出発するものです。カトリック教会は、神と、他者と、自然と、そして自分自身との調和ある関係を追求して生きていくようにと呼びかけることで、持続可能な人間開発の実現を目指しています。

環境危機についての考察はつねに、その人間的側面と社会的側面とを取り上げてなされなければなりません。それを可能にするのが、総合的なインテグラルエコロジーの考えであり、そこから導かれる姿勢です。

本書は、次のような3部の構成となっています。

第一部 観るSEE——「ともに暮らす家」を観る

第二部 識別するDISCERN——信仰に照らされて識別する

第三部 行動するACT——ともに生きるために行動する

観る、識別する、行動する――この3段階のプロセスは、カトリック青年労働者連盟(JOC)の実践から生まれ、教皇ヨハネ二十三世の回勅『マーテル・エト・マジストラ』(1961年)に取り入れられたものです。

ともに暮らす家、すなわち地球で今起きていることに対応するには、まず何が起きているのかを具体的に知り、知ったことについて、しかるべき原理に照らして判断を加え(カトリック教会においては、教会の社会教説[教会の社会についての教え]が基準となります)、その判断を踏まえて、なすべきことを決定し実践へとつなげていかなければなりません。こうした考えを本書は骨組みとしています。

今人類には、大胆なライフスタイルの刷新が求められています。それをどのように行っていくかは、各人が置かれた場(家庭、学校、職場、地域、信仰共同体など)によって異なります。

また、国や自治体あるいは企業などに訴えていく、社会全体に働きかけていくといった行動もあれば、個人の努力や心掛けによってなされる行動もあります。さらには、学校、勤め先、地域といった、身近な人間関係の中で協力して進めていく行動もあります。

そうした包括的な見地を本書は備えており、それを踏まえて読者に、環境やエコロジーについての理解と実際的な行動を促しています。

日本司教団は2020年に「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」を公にしました。地球を傷つけてきたことを真摯に反省し、神の愛の道具となることを願う祈りです。本書は、この祈りの引用によって結ばれています。

カトリック教会の司教団が著すものですから、すべては信仰の視座に基づいています。ですが、ここに述べられた訴えは、カトリック教会のみに向けられたものでもありません。

「すべての人が与えられたいのちを十全に生きることができるように」、その願いをもって日本司教団は、2001年に『いのちへのまなざし』を、2017年にはその増補新版を刊行しました。それは、宗教者の立場からでありながらも、一宗教の枠を超えて広く社会全般への呼びかけとなることを願って発せられたメッセージです。教会は社会から遊離したものであってはならず、社会への訴えかけは義務であり、欠くことのできない務めです。

その自覚をもって、『いのちへのまなざし』を受け、その主題をさらに展開していくものとなること――、本書刊行の意図は、そのように表現できるものでもあります。

この本は一人で読むよりもグループで読み、理解を共有し、行動につながることを意図されています。

10月の名古屋教区司祭の集い、月集ではこの本を学び、司祭相互の理解を図る企画が予定されています。

一宮教会でも『見よ、それはきわめてよかった』を共に読む会の発足を期待します。

## 一宮教会平和旬間記念行事

8月6日、11日に平和旬間行事が行われました。暑い中ご参加下さりありがとうございました。

平和祈願ミサ  
8月6日(火)8:00

主の変容  
原爆被災者追悼ミサ  
式次第



2024年8月6日8時

大乘公園慰霊祭  
8月11日(日)12:00



空爆殉難記念碑

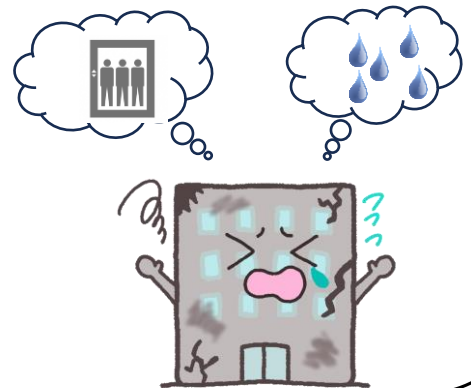
昭和三十三年七月二十八日  
一宮市長 伊藤一  
こゝ空爆の被爆の中心地  
をえらび昭和二十年七月  
十二日と七月二十八日の  
二回の空襲によつて尊  
い犠牲となられた罪なき  
市民の御霊七百余程の安  
らかなごめい福をお祈り  
し平和をまもるためにこ  
の碑を建立する


## 補修積立金のお願い

一宮教会の老朽化に伴い、現在継続して対応中の聖堂雨漏り修理のほか、今後、聖堂窓枠修理、外壁塗装、エレベーター改修等、高額な補修が必要となってきます。

そこで、補修のための積立献金を毎月第1日曜日に行うことになりました。

平素より維持費、ミサ献金等でご協力をいただいています。今後の一宮教会のためにさらなるご支援をよろしくお願いいたします。



 9月8日(日)はカトリック名古屋教区「障害者の集い」が開かれるため、教会駐車場は終日駐車できませんのでご注意下さい。

## のと支援バザーのお知らせ

女性部代表 須藤 喜美



日時 10月13日(日)9:00～ / 11:00～

場所 一宮教会1階ホール

物品販売(手作り食品の販売はありません)

バザーで販売する物品の提供をお願いします。

- ・衣類
- ・物品(60cm以内のもの)
- ・食品(保存のきくもの : レトルト食品・乾麺・缶詰・調味料等)
- ・野菜



1階ホールの倉庫に入れて下さい。皆様のご協力をよろしくお願いします。

## 敬老の日のご案内

9月15日(日)10時ミサで敬老の日の特別祝福を行います。

ミサ終了後、1階ホールでお茶を飲みながら、楽しくお話しできればと思います。

今年75歳を迎える方には記念品があります。ぜひご参加ください。



結婚おめでとうございます

8月10日(土)

印刷版に掲載しています。  
教会入口スタンドにあります。

## 訃報



印刷版に掲載しています。  
教会入口スタンドにあります。

さん (76歳)

2024年8月1日帰天



印刷版に掲載しています。  
教会入口スタンドにあります。

さん (77歳)

2024年8月14日帰天



永遠の安息をお祈りいたします

2024年9月のミサの意向（8月27日までの申し込み分）

印刷版に掲載しています。  
教会入口スタンドにあります。

公式ホームページもぜひご活用ください。



公式ラインの  
登録はこちらから



カトリック一宮教会

検索

